

課題研究論文

「スポーツ学におけるトレーニング・健康コースの役割とは何か」

トレーニング・健康コースの特集にあたって

びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要第4号の特集として「トレーニング・健康コース」に関する課題研究論文が求められた。

本コースは競技スポーツ学科に属しているが、狭い意味の競技スポーツに関わる分野に限定した教育研究活動を行っているわけではない。競技スポーツも生涯のスポーツ活動の一時期の活動ととらえ、少なくとも理念としては0歳から100歳までの人間のあらゆるスポーツ活動を対象としたいと考えている。今回は、このような観点から、本コースの教員がそれぞれの専門の立場から論述した。

人間のスポーツ活動を自動車の運転に例えた場合、まず燃料が問題となる。特にヒトの場合、効率的なエネルギー転換や身体各部を構成するためには、何をどれだけ摂取すればいいのかは大きな課題である。これらを取り扱うスポーツ栄養学の立場から河合美香講師が「スポーツ栄養学の現状と今後の展望—基礎研究の必要性和サポートの実際—」と題して論述した。

次いで取り込んだ栄養を消化・吸収し、エネルギーに転換するためには呼吸器からの酸素摂取が必要である。また、それらを全身に行き渡らせるためには循環器が必要となる。これらを取り扱うのはスポーツ内科と呼ばれる分野であり、その専門の立場から高橋正行教授が「大学サッカー選手のポジションによる身体的特徴と酸素摂取量の比較」と題して論述した。

さらに、これらでささえられた自動車の車体の各部、すなわちシャーシやギア、スプリングなどは人体では骨や関節、筋や腱、靭帯に該当し運動器と呼ばれている。これらの機能を維持することは自動車ではメンテナンス、スポーツ活動ではコンディショニングといわれている。また不幸にも故障が生じた場合、

修理すなわちリ・コンディショニングや保存的治療や観血的治療，さらにスポーツ復帰を目指したアスレティックリハビリテーションが行われる。

これらの観点から，アスレティック・トレーナーの立場で佃文子准教授が「新設スポーツ大学におけるアスレティックリハビリテーションの現状と問題点」と題して論述した。最後に運動器のスポーツ外傷や障害を取り扱うスポーツ整形外科の立場から大久保が「新設スポーツ大学におけるスポーツ外傷・障害相談の現状と問題点」と題して第Ⅰ編で統計的観察，第Ⅱ編で筋肉損傷について論述した。

それぞれが専門とする立場からの論述は，同時に，トレーニング・健康コースの本学開学以後の活動報告という色合いのものになった。そして，同時にスポーツ学におけるトレーニング・健康コースの役割の一端を示すことにもなった。本紀要の特集が今後のびわこ成蹊スポーツ大学の，なかんずくトレーニング・健康コースの発展に少しでも繋がればと願っている。

大久保 衛